

ITを活用した日本語教育指導能力向上研修

e-Japan対応事業

コンピュータと新日本語教育 2003



kokken

e-Japan

95

30

56852

独立行政法人 国立国語研究所

<http://www.kokken.go.jp>

はじめに

今回の研修会「コンピュータと新日本語教育2003」は、以下に述べる経緯のもと、独立行政法人国立国語研究所が日本語教育支援事業の一環として開催するものです。

平成13年1月に施行された高度情報通信ネットワーク社会形成基本法に基づき、「高度情報通信ネットワーク社会推進戦略本部(座長小泉首相)」(<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/it2/>)が設置され、「e-Japan 重点計画」が策定されました。具体的には、「5年以内(平成17年末まで)に世界最先端のIT国家になる」という目標を掲げた「e-Japan 戦略」が決定され、「e-Japan2002 プログラム」が策定されました。この中に、「諸外国の日本に対する理解の促進並びに外国人の日本語学習支援のために、国内外の日本語学習環境の整備を促進し、日本語の普及や日本文化に関する様々な情報の発信を行うこと」(文化審議会答申)が盛り込まれました。

そこで、文化庁は日本語教育支援総合ネットワーク事業を立ち上げ、国立国語研究所は、国際交流基金日本語国際センター(海外日本語教師支援事業)等との連携のもとに、平成12年度より日本語教育関係情報や多様な教材用素材を蓄積しデータベース化し、インターネットを通じて流通を図る「日本語教育ネットワーク」(<http://www.kokken.go.jp/nihongo>)を運用しています。

また、平成14年度より国立国語研究所は、「e-Japan 重点政策」の5分野の中の「人材の育成と教育・学習の振興」において、「ITを活用した日本語学習環境の整備」を実施しています。この事業は、国内外での日本語学習、海外での日本語・日本文化理解を促進するため、

- (1)「海外のコンピュータの日本語環境整備」
- (2)「ITを活用した日本語学習効果の研究」
- (3)「日本語・日本文化に関するコンテンツの研究開発・提供と流通の場の提供」
- (4)「ITを活用した日本語教育指導能力向上研修」

の四つの柱を立てて進めています。

今回の研修会「コンピュータと新日本語教育2003」は、上記(4)「ITを活用した日本語教育指導能力向上研修」の中の基礎研修として、国内外の日本語学習者、並びに日本人・外国人の日本語指導者の活動を支援する日本語学習支援事業の一つとして実施します。当初、夏季に実施する予定でしたが、諸般の事情により冬季に実施することになりました。

この「コンピュータと新日本語教育2003」は、ITを活用した日本語教育の基盤形成を目指して平成17年度まで継続する予定です。教育(教師・学習者・経営者)、研究(研究者)、開発(技術開発者)の交流と相互啓発の場、産学共同プロジェクト推進の場、国内外協力プロジェクトの基盤作りの場になれば幸いです。

平成15年12月21日

独立行政法人国立国語研究所
日本語教育部門長 杉戸 清樹

目次

御来場の皆様に	1
展示会	3
展示会場案内図	4
出展企業・機関情報	6
自由閲覧コーナー展示教材一覧	22
基調講演	29
セミナー	39
セミナー時間割	41
セミナー内容紹介	42
e-Japan 事業について	48
おわりに	52

全体スケジュール

(午前: 10:00~12:00 午後: 13:00~16:30)

	21日		22日		23日	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後
IT 研修			講演	展示会		~16:00
				セミナー		
短期 研修	講演	シンポジウム				
					分科会 ~16:30	

※ ホールD7およびガラス棟5階会議室にて、短期研修「学習をとらえなおす」を開催中

会期：平成 15 年 12 月 21 日(日)～23 日(火・祝)

10:00～17:00 (初日は 13:00 より, 最終日は 16:00 まで)

会場：東京国際フォーラム ホールB5

主催：独立行政法人 国立国語研究所

後援：文部科学省

メディア教育開発センター

CIEC (コンピュータ利用教育協議会)

大学日本語教員養成課程研究協議会

日本教育工学会

社) 日本語教育学会

韓国日本学会

韓日日本語日文学会

ドイツ語圏大学日本語教育研究会

ヨーロッパ日本語教師会

Eジャパン協議会

財) コンピュータ教育開発センター

社) 日本教育工学振興会 (JAPET)

日本経済新聞社

日本語教育新聞社

NHK

毎日新聞社

読売新聞社

(順不同)

協力：AJALT (社) 国際日本語普及協会

(株) アドバンスト・メディア

株式会社 アニモ

株式会社アルカディア

株式会社インテグラル

NEC

株式会社 エミットジャパン

財団法人海外技術者研修協会 AOTS 日

本語教育センター

株式会社 紀伊國屋書店

中国・高等教育出版社

国際交流基金

コクヨ株式会社

KOMATSU

株式会社サウンドシステム

(株) シーティーイー

韓国・(株) 時事日本語社

株式会社システムインテグレーター

ゼブラウイング株式会社

台湾・大新書局

株式会社デジタル・ナレッジ

株式会社 林事務所

日立ソフトウェアエンジニアリング株式会

社

株式会社フォトロン

株式会社富士通ラーニングメディア

中国・北京日本学研究中心

文部科学省大学共同利用機関 メディア

教育開発センター

株式会社モリサワ

豊無線株式会社

株式会社ユニシア

Consortium Cyber Campus

(順不同)

御来場の皆様に

「コンピュータと新日本語教育 2003」に御来場くださりましてありがとうございます。この催しは、日本語教育関係者がコンピュータという多機能な道具を前にして、「どのように使うと日本語学習者に有益となるのか」「日本語教育の質的改善が図れるのか」ということについて、さまざまな道具に触れ、多くの人と話し合うことで、多角的な視点から考えてみるということを目的としております。この3日間という限られた時間と空間を有意義に過ごしていただくために、いくつかの留意点を以下に述べます。

(1) 展示について

企業や教育機関などの御協力を得て行われるホールでの展示は、単に教材や先端技術ツールを見る場とは考えておりません。CD教材、ネットワーク教材を自由に試せる用意をしておりますので、実際に操作され、開発者などと積極的に意見交換をしてください。先端技術ツールについても、交流のためのスペースを用意しておりますので、御自身の立場から開発者に積極的に声を掛けてください。国立国語研究所スタッフにも気軽に声をお掛けください。

(2) 講演

日本語教育にコンピュータ技術を必ず使わなければいけないと考えているわけではありません。コンピュータはいろいろな機能をもつ道具ですが、それを使うのは教師や学習者です。教師は、その道具を前にして、「どのように考えていかなければならないか」「どのようなことが求められているのか」ということを基軸に、日本、韓国、中国の三人の先生にお話をお願いしております。

(3) セミナー

セミナーは事例報告と演習で構成されます。事例報告は、展示会場のスクリーンで御覧いただけます。セミナー参加者に対して、できる限り個別対応をしますが、御自身でも他の参加者と積極的に情報交換をしてください。また、参加者は、展示を閲覧する時間が限られていますので、効率的に3日間をお使いください。なお、お持ちのパソコン関係備品は、各自の責任において管理してください。

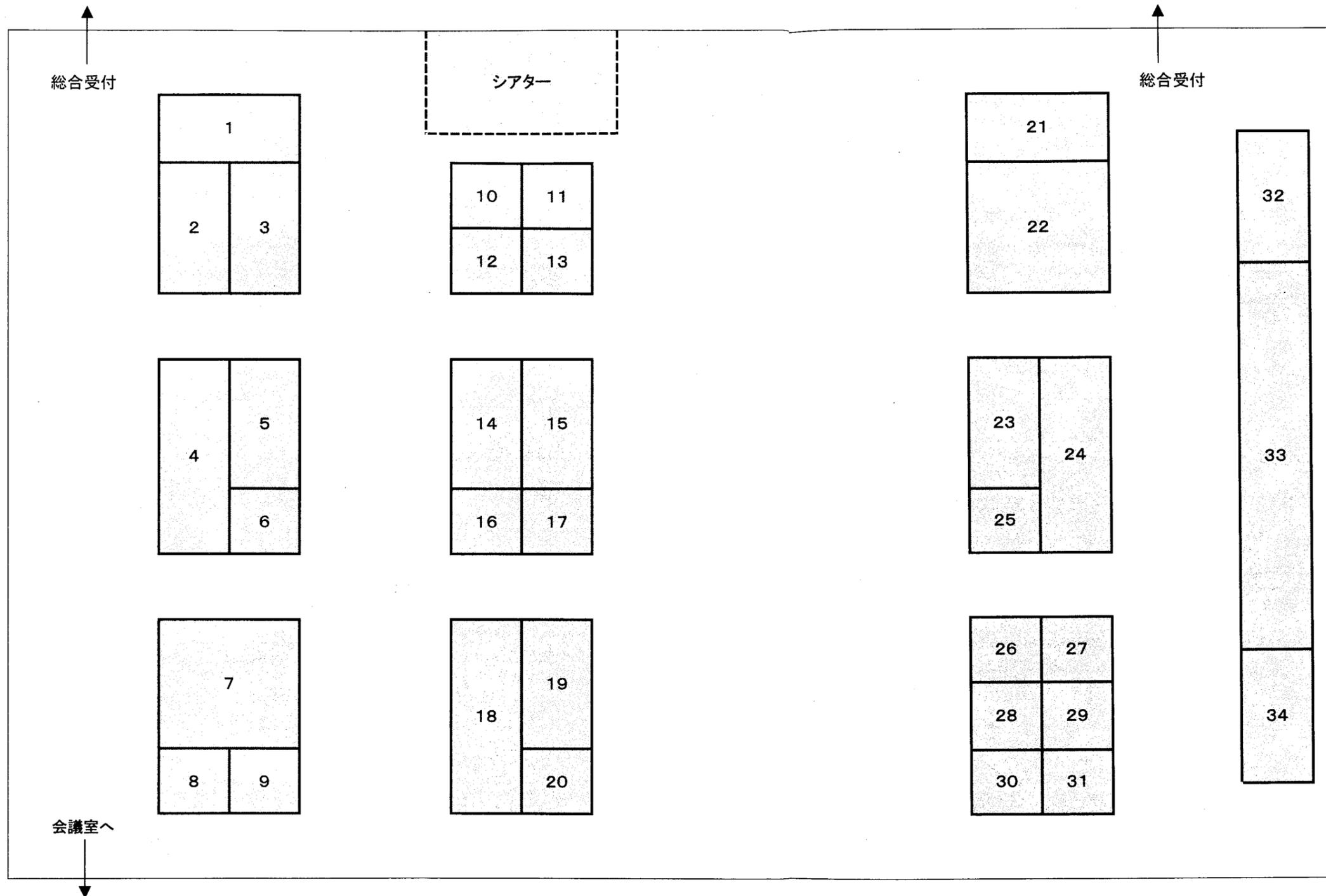
最後に、今回の御来場で得られた情報や知識や人脈を周囲の多くの方と共有していただくようお願いいたします。また、この催しは、来年度も実施します。より充実した開催のために、アンケートへの御協力をはじめ、情報提供や展示希望などを国立国語研究所スタッフまでお知らせください。それでは、有意義な時間を過ごしましょう。

注意事項

- ・展示会場のホールB5は、ホール内は飲食禁止です。
- ・指定された場所以外での喫煙は御遠慮ください。
- ・携帯電話は、ホール・会議室外のロビーでお願いします。
- ・パネル、机、椅子等は所定の場所以外には動かさないでください。
- ・ホールおよび会議室にお入りになる際には、必ず名札を着用してください。

「コンピュータと新日本語教育2003」

展示会



注意事項

- ・ホール内は飲食禁止です。
- ・指定された場所以外での喫煙は御遠慮ください。
- ・携帯電話はホール外のロビーでお願いします。
- ・パネル、机、椅子等は所定の場所以外には動かさないでください。
- ・ホール内では必ず名札を着用してください。

1. 株式会社モリサワ
2. 株式会社フォトロン
3. KOMATSU
インテグラル
4. 株式会社 紀伊國屋書店
5. NEC
6. NEC (体験コーナー)
7. 株式会社ユニシア
8. (株) シーティーイー
9. 株式会社 林事務所
10. (株) アドバンス・メディア
11. 株式会社 アニモ

12. 株式会社アルカディア
13. 株式会社富士通ラーニングメディア
14. 財団法人海外技術者研修協会
AOTS 日本語教育センター
15. 国際交流基金
16. 株式会社エミットジャパン
17. 文部科学省大学共同利用機関
メディア教育開発センター
18. ゼブラウイング株式会社
19. コクヨ株式会社
20. 釜山外国語大学日本語教育研究室
釜山日本語教育研究会

21. 株式会社デジタル・ナレッジ
22. 株式会社システムインテグレータ
23. AJALT (社) 国際日本語普及協会
24. 自由閲覧コーナー(海外の教育サイト)
25. 豊無線株式会社
26. 高等教育出版社
27. 国立国語研究所 (3)
28. (株) 時事日本語社
29. 広島大学
30. 大新書局

31. 日本語読解学習支援システム
「リーディング・チュウ太」
32. 書籍展示 (凡人社)
33. 自由閲覧コーナー(CD-ROM 教材)
CD-ROM 教材展示
34. 国立国語研究所 (1) (2)

株式会社アドバンスト・メディア

部署 : 営業本部 エンターテインメント&エデュケーションビジネスユニット
住所 : 〒170-6048 東京都豊島区東池袋 3-1-1 サンシャイン 60 48 階
電話 : 03-5958-1091
HP : <http://www.advanced-media.co.jp>
e-mail : nwada@advanced-media.co.jp

ブース
10

AmiVoice CALL

世界最先端音声認識エンジン AmiVoice を利用した CALL(Computer Assisted Language Learning)システムのご紹介をさせていただきます。既存の音声認識エンジンでは実現できなかった、日本人特有の英語発音の認識『Jenglish』、日本人の英語発音評定『AmiVoice Error Tracer』をベースにユーザーの英語学習を総合的にサポートするシステムです。

株式会社 アニモ

部署 : VSS 営業部
住所 : 〒231-0015 横浜市中区尾上町 2-27 朝日生命横浜関内ビル 4F
電話 : 045-663-8640
HP : <http://www.animo.co.jp/>
e-mail : sales@hq.animo.co.jp

ブース
11

FineSpeech

SUGI SpeechAnalyzer

花鼓-II, 等

当社は、音声技術開発ベンチャー会社として、日本語教育における音声言語関連の以下の技術・製品を展示します。

- ・日本語音声合成ソフトウェア「FineSpeech」
高音質の日本語音声合成に加えて、感情表現を可能とした「FS Emotional」、個人音声合成をご紹介します。
- ・音声分析可視化ソフトウェア「SUGI SpeechAnalyzer」
音声言語教育で重要な基本周波数(ピッチ)を高い精度で分析を行うことができるソフトウェアです。
- ・ヴェルボトナル法(VT 法)を活用した「花鼓-II」
- ・話速変換、イコライズ機能等の音声処理技術

株式会社 アルカディア

部署 : 事業部
住所 : 〒562-0003 大阪府箕面市西小路 3-1-15 アクセス箕面
電話 : 03-5357-2351 (本件の問合せ専用 TEL)
HP : <http://www.arcadia.co.jp>
e-mail : info@arcadia.co.jp

ブース
12

SpeeCAN-SFT

アインシュタイン

SpeeCAN-SFT は、日本語音声合成のために開発された Win 版のアプリケーションです。その特徴の 1 つである、アクセントの調整機能や音素片の選択機能を応用し、日本語の正しい発話教育にお役に立てればと考えます。

また、同時出品のアインシュタインは、初心者の方でも簡単にご利用いただけるホームページ作成用のアプリケーションです。研究成果の発表や教材の作成にご利用いただければと考えております。

株式会社 インテグラル

部署 :
住所 : 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 2-46 吉野ビル
電話 : 03-3556-4453
HP : <http://www.zassi.net>
e-mail : info@i-gral.co.jp

ブース
3

Zassi.net (雑誌ネット)

国会図書館のデータベース検索でも紹介されている雑誌の出版発売速報サイトです。、主要な雑誌の表紙/目次/中吊り広告などカラー画像を閲覧でき、発売当日から目次の検索も可能で過去3年のバックナンバーが有るタイトルも…。 カラーの資料をインターネットを通じ閲覧する仕組みとしてご紹介いたします。

株式会社 エミットジャパン

部署 :
住所 : 〒464-8603 愛知県名古屋市千種区不老町1番地
名古屋大学 インキュベーション施設201号室
電話 : 052-705-6400
HP : <http://www.emit-japan.com>
e-mail : chou@emit-japan.com

ブース

16

① 留学生のための初級日本語教育における WebCT の活用 (立命館アジア太平洋大学)

② WebCT 4.0 日本語版の紹介

- ① 留学生を対象とした初級日本語教育(入学前予備教育を含む)における WebCT の活用について展示する。具体的には、学生が来日前に遠隔教育の中で使用する教材「サバイバル日本語」と正課で使用する自習文法教材の開発と使用状況についての展示である。また、立命館アジア太平洋大学の日本語教育における e-Learning への取り組みについて紹介する。
- ② 高等教育機関における e-Learning プラットフォームとして豊富な実績をもつ WebCT は講義における講師への支援や生徒とのコミュニケーションなど効果的な教育提供の可能性を広げます。本展示は WebCT4.0 日本語版の機能と WebCT の活用例を紹介する。

NEC

部署 : 文教ソリューション事業部
住所 : 〒108-8001 東京都港区芝 5-7-1 NEC 本社ビル
電話 : 03-3798-2906
HP : <http://www.sw.nec.co.jp/educate/>
e-mail : webmaster@elsd.ho.nec.co.jp

ブース

5,6

協調学習型 e-Learning システム i-Collabo.Learning

i-Collabo.Learning は、ネットワークを通じて、誰もがいつでもどこからでも協調学習の機会を得ることができる e-Learning システムです。

今回の展示では、

- ・ i-Collabo.Learning の中核となる、オンデマンド授業や LMS (Learning Management System) を実現するオンライン学習システム
- ・ ライブ(双方向)授業を実現する遠隔講義・ビデオ会議システム
- ・ 誰もが簡単に教育コンテンツを作成できる統合オーサリングツール

のデモを皆様に体験いただきます。

財団法人海外技術者研修協会

部署 : AOTS 日本語教育センター
住所 : 〒120-8534 東京都足立区千住東 1-30-1
電話 : 03-3888-8240
HP : <http://nihongo.aots.or.jp/>
e-mail : jltc@aots.or.jp

ブース
14

『WBT AOTS 日本語コース』

WBT AOTS 日本語コースは AOTS が 40 年以上に亘り開発した教材をマルチメディア化したオンライン教材です。「近くに勉強する場がない」「忙しくて学校へ行く時間がない」「適当な教材が手に入らない」等の問題を解決します！

「WBT AOTS 日本語コース」は初級から中級前半レベルまでの日本語を体系的に自分のペースで効率的に楽しくマスターできます。学習進捗度やテスト成績もインターネット上ですぐにわかり、個人学習だけでなく集合教育にも最適です。<http://nihongo.aots.or.jp/>に、各コースの学習の流れが分かるサンプルがご覧いただけます。ID、パスワード画面がありますが、無料サンプルの場合、入力はありません。

株式会社 紀伊國屋書店

部署 : 出版部
住所 : 〒150-8513 東京都渋谷区東 3-13-11
電話 : 03-5469-5919
HP : <http://www.kokken.go.jp/public/jibooks>
e-mail : publish@kinokuniya.co.jp

ブース
4

JiBOOKS

日本語環境のない海外の日本語学習者・研究者からでも日本語の書籍や辞書情報(大辞林、デイリーコンサイス英和・和英辞典)を容易に検索するためのシステム「JiBOOKS」、「JiWORDS」をご紹介します。ローマ字読みのアルファベットから検索可能(例:夏目漱石を"natsume souseki"で検索)ですので、日本国内で日本語を学ぶ外国人の方からも便利にご利用いただくことが可能です。

併せて、ニッポニカ(日本大百科全書)、Encyclopedia of Japan、人名辞典などの情報をインターネット経由で検索できる JapanKnowledge や、雑誌記事検索サービス、新聞のデータベースをご紹介します。

中国・高等教育出版社

部署 : 外語分社
住所 : 中国 100011 北京市西城区德外大街4号
電話 : 010-58581956
HP : <http://www.cflo.edu.cn/>
e-mail :

ブース
26

『日本語初級総合教程』CD版など

中国の日本語教育におけるコンピュータ利用状況を次のテーマからその一端を紹介する。

a. コンピュータと学習者

『日本語初級総合教程』などのマルチメディア教材を事例に、学習を支援するためのコンテンツ開発と出版例を提示する。

b. コンピュータと教師・研究

「教科書データベース」や「中日対訳コーパス」を事例に、教師と教育研究を支援する共同研究プロジェクトとその成果を紹介する。

c. ネットワークで作る学習リソース

「日本語学習総合ネットスタント」を事例に、ネット教材・テストシステムなどのリソース開発現状と未来像を例示する。

国際交流基金

部署 : 日本語国際センター制作事業課
住所 : 〒330-0074 埼玉県さいたま市浦和区北浦和 5-6-36
電話 : 048-834-1183
HP : <http://www.jpfi.go.jp/kyozai/>
e-mail : kyozai@jpfi.go.jp

ブース
15

「みんなの教材サイト」

インターネットを利用した日本語教師支援サイト「みんなの教材サイト」のご紹介。

「みんなの教材サイト」では、いつでも、どこでも、簡単に、教材作成に自由に活用できる日本語教育用素材が手に入ります。

日本語教師志望の方、日本語ボランティアの方から、すでに教師としてベテランの方まで、またコンピュータはまだまだ初心者の方から、使い慣れた方まで、それぞれの方にご満足いただけるようなコンテンツを用意しておりますので、日頃の教材作りでお悩みの方、是非、お立ち寄りください。

(社) 国際日本語普及協会

部署 :
住所 : 〒105-0001 東京都港区虎ノ門 3-25-2 ブルヂストン虎ノ門ビル 2F
電話 : 03-3459-9620
HP : <http://www.ajait.org/>
e-mail :

ブース
23

AJALT ホームページ上 online 教材

AJALT ホームページ上 online 教材の紹介

学習者向け、教師向けに無料公開中の以下のコンテンツについてご説明いたします。

1. サバイバルジャパニーズ
2. ラーニングサプリメント
3. ドキドキドッカ〜ン
4. クロスワードパズル
5. ちまたの日本語
6. AJALT 歳時記
7. 漢字で学ぶ日本語
8. 人形で教える日本語
9. リソース型生活日本語

コクヨ株式会社

部署 : IT コミュニケーションカンパニー
住所 : 東京都中央区日本橋浜町 2-61-9 TIE 浜町 6F
電話 : 03-5642-1382
HP : <http://www.kokuyomimio.com/>
e-mail : Eiji_kurokami@kokuyo.co.jp

ブース
19

mimioPersonal

手書きでかかれたデータがそのままパソコンに取り込むことが可能な mimioPersonal。

超音波と赤外線で位置情報を検出して PEN の動きを把握します。

専用の用紙も必要ありません。

付属の日本語文字認識ソフト「スクリプトコンバーター」を使えば、他のアプリケーションでも編集可能です。

国立国語研究所 (1)

部署 : 日本語教育部門 (「言語資源」プロジェクト)
住所 : 〒115-8620 東京都北区西が丘 3-9-14
電話 : 03-5993-7632
HP : <http://www.kokken.go.jp/>
e-mail : smudr@kokken.go.jp

ブース
34

日本語学習者による日本語作文と、その母語訳との対訳データベース (拡張版)

このデータベースは、

- 1) 日本語学習者による日本語作文
- 2) 1)の母語訳
- 3) 1)に対する添削情報
- 4) 執筆者・添削者に関する言語歴情報

という4種類の情報を、互いに関連付ける形でデータベースとしたものです。2001年に、アジア10カ国で収集した約千人分のデータを公開済みですが、その後欧米諸国で収集したデータを追加し、かつ

- a) 添削情報のXMLによる電子化
- b) 日本語作文の一部への形態素情報の付与
- c) 形態素情報による検索を可能にするツールの開発

をおこない、さらに高度な研究目的にも使用できるようになりました。

国立国語研究所 (2)

部署 : 日本語教育部門 第一領域
住所 : 〒115-8620 東京都北区西が丘 3-9-14
電話 : 03-5993-7656
HP : <http://www.kokken.go.jp/>
e-mail : sugaih@kokken.go.jp

ブース
34

テストアイテム保存バンク

テスト問題は一度使われると通常そのまま忘れ去られ、次年度になると別の教師がまた同じような問題をつくらなければならないことがあります。しかし、一度つくった問題をアイテムとして保存し、複数の人間で蓄積して使いまわしができるようになれば、教師はより質の高い新規のテスト問題の開発に時間を割くことができます。

このテストアイテム保存バンクは、テスト問題をアイテムとして保存し、形式や難易度など問題の属性を記録しておくことができます。様々な検索機能と、フォーム作成機能により、作成したいテスト冊子に合うアイテムを瞬時に見つけ出し、テスト冊子を自動で作成します。

国立国語研究所 (3)

部署 : 日本語教育部門 第二領域
住所 : 〒115-8620 東京都北区西が丘 3-9-14
電話 :
HP : <http://www.kokken.go.jp/jsl/>
e-mail : yuko@kokken.go.jp

ブース
27

日本語音声教育とコンピュータ利用

コンピュータが日本語音声教育にどのように利用できるかを考える第一歩として、発声発語訓練システムを使った音声指導の可能性を探っています。

このシステムは簡単に音声を録音でき、有声音・無声音の区別、息の出方の強弱、声の強弱、摩擦の有無、声の高低、鼻の振動の有無などを波形で見ることができるのが特徴です。音声を視覚化することによって、学習者の発音と母語話者の発音の違いを比較することなどもできます。また、音の特徴を見ることによって学習者が自分の日本語の発音を見直すきっかけにならないかと考えています。現在国立国語研究所では、このシステムを韓国(ソウル・釜山)、中国、タイに送り、試用してもらう計画を進めています。

KOMATSU

部署 : CSS-Net 事業部
住所 : 〒107-8414 東京都港区赤坂 2-3-6
電話 : 03-5561-2790
HP : <http://www.komatsu.co.jp/css/>
e-mail : css-net@komatsu.co.jp

ブース
3

教育資料のインターネット閲覧

国立公文書館で運営されているアジア歴史資料センターを始め、各大学図書館・研究機関で活用いただいているインターネットの配信方法をご紹介します。この方法は、通信回線事情が悪いところでも、すばやく画像を閲覧できる仕組みとなっております。

今回は、実際に使われている各大学図書館の古文書や学級新聞・作文など、手書きで書かれた内容をインターネット上で閲覧できるデモンストレーションを準備しております。

(株) シーティーイー

部署 : ラーニングメディア制作室
住所 : 〒112-0005 東京都文京区水道 1-9-1 I&I ビル
電話 : 03-5689-4080
HP : <http://www.web-cte.co.jp>
e-mail : a-sakata@web-cte.co.jp

ブース

8

1. マルチメディア教材

「これで安心ビジネス日本語」(パイロット版)

2. マルチメディア教材

「東遊記」(聴解 日本事情紹介)

3. 多言語変換システム (地図 その他)

- ◎ 今後も増加が予想される日本企業への外国人就業者のためにビジネス日本語を映像で分りやすく学習するマルチメディア教材。開発中の製品の一部を展示いたします。
- ◎ インタビュー映像をもとに聴解力を伸ばし日本事情を紹介する「東遊記」を自由閲覧ブースおよび弊社ブースにて展示いたします。4ヶ国語の対訳機能で多国籍の学習者をカバーする仕様になっています。
- ◎ 必要な地域の地図を8ヶ国語に自動変換する多言語地図システム。学校周辺のオリジナル地図作成に利用が可能です。

韓国・時事日本語社

部署 : 編集部
住所 : 大韓民国 110-450 ソウル市鐘路区苑南洞 4-1 番地
電話 : 02-3671-0551
HP : <http://www.sisajapanese.com>
e-mail :

ブース

28

日本語教材の出版

小社発行の日本語教材のうち、韓国でよく売れるものと最近発行されたものを中心に展示し、CD-ROM 付きの教材もお持ちします。また、日本語に限らず外国人のための韓国語教材やその他の語学教材も紹介させていただく予定です。

株式会社システムインテグレータ

部署 : マーケティング部
住所 : 〒336-0017 埼玉県さいたま市南区南浦和 2-39-16 第五大雄ビル 4F
電話 : 048-813-5291
HP : <http://www.sint.co.jp/kyozai/>
e-mail : kyozai@sint.co.jp

ブース
22

「SI 作って教材 V4.1」

e-Learning の5大要素である「教材作成」、「オンライン受講」、「進捗管理」、「統計分析」、「コミュニケーション」全ての要素を取り込んだパッケージソフトウェアが「SI 作って教材」です。本製品の特徴は、Html など特殊技術を知らない方であってもワープロが出来る方なら誰でも簡単に Web 教材を作成する事が出来ます。さらに「多言語対応」によって、各国の言葉を表示する事も出来ます。今まで利用していた「Word」「Excel」「Power Point」も添付資料として利用可能です。画期的な LMS として学校・企業から注目を浴びています。

ゼブラウイング株式会社

部署 :
住所 : 〒162-8562 東京都新宿区東五軒町 2-9
電話 : 03-3268-1287
HP : <http://www.zebrawing.co.jp/>
e-mail : tmori@zebra.co.jp, hnagatani@zebra.co.jp, tkwabata@zebra.co.jp

ブース
18

手書きリンク

Tegaki Net OFFICE

Tegaki Studio

Tegaki Net REAL PAPER

Tegaki Net REAL PAPER2

専用紙を必要とせずに、手書きの文字やイラストをパソコンに入力できるデジタル文具「手書きリンク」を用いて、Eメールによる双方向手書き添削システムを実現させる「Tegaki Net OFFICE」、様々なフォーマットのデータを取り込み、動画・音声・テキスト等を同期して再生できる新発想のeラーニング教材作成ツール「Tegaki Studio」、インターネットを通じリアルタイムで映像・音声を配信しながら教材を共有し、双方向リアルタイム eラーニングを実現させるサーバサービス「Tegaki Net REAL PAPER」、同様にインターネットを通じ、1対1の手書きビジュアルコミュニケーションを実現させる「Tegaki Net REAL PAPER 2」の展示。

15

韓国・鮮文大学 日本語科

部署 :
住所 : 大韓民国 336-840 牙山市湯井面葛山里
電話 : 041-530-2422
HP : <http://www.sunmoon.ac.kr/~edu.jp>
e-mail : yjan@sunmoon.ac.kr

ブース
28

1. C&C Japanese Home page edition

2. N Generation syokyu nihongo 1,2 (教材+CD-ROM)

1. C&C Japanese

自律学習型日本語会話学習コースウェア

- ① 文化を取り入れた日本語会話能力向上コースウェアとして開発し、学習者の先行学習のレベルに合わせて3段階のスパイラル構造をもって構成。
- ② 先行学習のレベルテスト:ランダムによるPTを行い、学習レベルを確認できる構造。
- ③ 学習ヘルプ機能:学習を手伝うための電子辞書機能を用意し、単語確認と発音確認可能。
- ④ 深化学習を手伝うホットメニュー(関連情報を詳細に探索できるメニュー設置と掲示板を使って専門家と意見交換が可能)

2. N Generation syokyu nihongo 1,2 (教材+CD-ROM)

- ① 教材の内容を自律学習できるようにアニメーションを使ったCD-ROM版で再構成
- ② 予習・復習のための充実なリアルサウンドとアニメーション構成

台湾・大新書局

部署 : Marketing & Planning Dept
住所 : 台湾 106 台北市瑞安街 256 巷 16 号
電話 : 886-2-2707-3232
HP : <http://www.dahhsin.com.tw>
e-mail : kiyama@dahhsin.com.tw

ブース
30

マルチメディア語学学習教材

創立 40 余年になります弊社は、中日交流協会をはじめ日本の大手出版社・日本語学校・日本語教育学術機関と密接な関係を保ち、中国語圏(台湾・マカオ・香港・中国大陸)において、日本語教材の開発出版・代理出版・授権出版を専門としている出版社です。

時代は益々マルチメディア化する中で、双方向性の学習教材の研究にも力を注ぎ、各プラットフォーム(PC・PDA・電子PAD・インターネット等)における電子学習方式の開発にも成功しました。

今回は、だれでも・どこでも・いつでも、効果的に語学(日本語・中国語・韓国語)学習ができるマルチメディア教材をご用意しましたので、ご自身で体験してみてください。

チュウ太・プロジェクト

部署 :
住所 : 〒350-0241 埼玉県坂戸市鶴舞 4-15-24
電話 : 049-289-7845
HP : <http://language.tiu.ac.jp>
e-mail : kawamura@tiu.ac.jp

ブース
31

日本語読解学習支援システム「リーディング・チュウ太」

1997年から開発を進め1999年10月からインターネット上で公開してきた日本語読解学習支援システム「リーディング・チュウ太」は学習者がインターネット上の情報を用いて自由に読解学習をすすめることができる自律学習支援システムである。このシステムには辞書引きツール・レベル判定ツール・リンク集・読解教材バンク等が有機的に統合されている。

本展示では特に次の3点について紹介する。

1. 「リーディング・チュウ太」の概要
2. インターネットを活用した読解教育
3. 辞書ツールの多言語化プロジェクト

株式会社デジタル・ナレッジ

部署 : 営業部
住所 : 〒102-0072 東京都千代田区飯田橋 4-5-11 パール飯田橋ビル 4F
電話 : 03-5215-1131
HP : <http://study.jp/>
e-mail : now@ten.ne.jp

ブース
21

Web 上の研修スペース Study.jp

進化した教育スタイルへ。

デジタル・ナレッジはインターネットを活用した教育ツール「Web 上の研修スペース Study.jp」をご提案します。

Study.jp は、月額7,000円/10名で「教員同士の教材研究」や「学校から家庭への情報配信」、「補習や予習教材の伝達」、「総合学習での生徒発表」などに利用できるeラーニングASPサービスです。

インターネットを利用した新しい学習スタイルについて何でもご相談ください。

株式会社 林事務所

部署 :
住所 : 〒151-0064 東京都渋谷区上原 3-6-6 オークハウス 4F
電話 : 03-3481-0510
HP : <http://www.h-comnet.co.jp>
e-mail :

ブース
9

カタカナ・ルビナビ

コミュニケーションツール「Z-ing」

教材作成テンプレート (仮)

- 日本語学習者に使ってもらいたいアプリケーションソフト『カタカナ・ルビナビ』
日本語を学習する外国人にとって、カタカナ語は大きな課題であるという点に着目し開発したカタカナ語に瞬時に反応する音声付き辞書プログラム。
- 教師と生徒を結ぶコミュニケーションツール
コーチと選手、先生と生徒など、チームやクラス単位で利用できるコミュニケーションツールとしてのグループウェア。現在ユースサッカーのエリートプログラムで使用中の Z-ing をご紹介。
- 教材作成テンプレート
オリジナルの教材づくりをスムーズに行なうためのテンプレート。PC からダウンロードしたり自分で集めた素材をテンプレートを選んで簡単に加工できます。

株式会社フォトロン

部署 : eソリューショングループ
住所 : 〒102-0071 東京都千代田区富士見 1-1-8 千代田富士見ビル
電話 : 03-3238-2106
HP : <http://www.photron.co.jp>
e-mail : e-solution@photron.co.jp

ブース
2

Power Index v2

映像ナレッジマネジメントシステム「Power Index」

「Power Index」は「作りやすい・見やすい・拡張しやすい」をコンセプトに開発された映像ナレッジマネジメントシステムです。動画コンテンツを編集しネットワーク経由で配信したり、見たい画像を即座にキーワード検索することができます。ネットによる知識の共有化に活用できます。

韓国・釜山外国語大学校

部署 : 釜山外国語大学日本語教育研究室
釜山日本語教育研究会
住所 : 大韓民国 608-738 釜山広域市南区牛岩洞 55-1 釜山外国語大学校
電話 : 051-640-3191
HP : <http://www.ocu.or.kr>
<http://top.realtop.co.kr>
e-mail : gyjung724@yachoo.co.jp

ブース
20

1) サイバー基礎日本語講座

2) 韓国内外日本語学習サイト検索エンジン

- 1) サイバー基礎日本語講座は、インターネットを利用して大学の講義と同様の内容、水準の講義をWeb上で受けることができるシステムである。講座は1回毎に学習目標が定められ、文法説明や練習問題によって課題をこなしていくように構成されている。受講後には達成度を測るためのミニテストもある。
- 2) 韓国内外日本語学習サイト検索エンジンは、韓国をはじめ日本やその他の国で運営されている日本語学習サイトを言語の四技能を中心に目的別に分類し、現在運営されているサイトを利用して日本語学習をする際に、求める情報をすばやく的確に得るための補助となるものである。サイト内は3層で構成されており、そのサイトについての内容紹介や長所・短所などの説明も見ることができる。

株式会社富士通ラーニングメディア

部署 : 研修事業部コンテンツ開発部
住所 : 〒144-0051 東京都大田区西蒲田 7-37-10 蒲田グリーンビル
電話 : 03-3730-4361
HP : <http://kids.knowledgewing.com/>
e-mail : kaito@flm.se.fujitsu.co.jp

ブース
13

ひらがなナビV3

富士通ラーニングメディアブースでは、インターネット上の漢字をひらがな変換表示できるブラウザ『ひらがなナビV3』と言葉の意味を映像、音声で解説できる『ひらがなナビ辞典』他を実演展示します。さらに、パソコンの基礎から、インターネット活用までを学べる各種テキスト教材を出品いたします。

また、ご好評いただいておりますお客様の課題や環境に合ったeラーニングサービスについても、ご紹介させていただきます。

文部科学省大学共同利用機関メディア教育開発センター

部署 : 事業部教材制作課
住所 : 〒261-0014 千葉県千葉市美浜区若葉 2-12
電話 : 043-298-3125
HP : <http://www.nime.ac.jp/>
e-mail : k-kyozai@nime.ac.jp

ブース
17

CALL 副教材シリーズの紹介及びメディア教育開発センター教材紹介パンフレットの配布

本センターが平成12年度から14年度までに制作した、コンピュータやマルチメディアの特徴を生かした言語学習の教材「CALL 副教材シリーズ」について、皆様に実際に操作等を行っていただきます。本教材は、日本語教育はもちろん、音声学や国語教材など、言語や音声に関わる広い分野でご活用いただきたい教材となっています。

株式会社モリサワ

部署 : 営業推進課
住所 : 〒162-0822 東京都新宿区下宮比町 2-27
電話 : 03-3267-1231
HP : <http://www.morisawa.co.jp>
e-mail : hironori_sakai@morisawa.co.jp

ブース
1

GlyphGate

これまで Web 上での文字表現は、文字を画像化する作業を必要としました。GlyphGate(グリフゲート)は、Web サーバー上でコンテンツの表示に必要な文字の情報を埋め込んで配信いたします。GlyphGate は、書体のアウトライン情報を提供するため、日本語以外の他言語 OS の Web ブラウザでも日本語を正確に表現することが可能です。主な特徴は下記の4点です。

1. 文字の画像化を必要とせず、アウトラインでの出力が可能となる。
2. ダイナミックコンテンツでの利用が可能となる。
3. 全てがテキスト表現なので、検索エンジンや、読み上げソフトに対応することが可能となる。
4. 日本語環境がない PC でも日本語閲覧が可能となる。

豊無線株式会社

部署 : 技術
住所 : 〒142-0042 東京都品川区豊町 2-23-10
電話 : 03-3784-2311
HP : <http://www.yutakamusen.co.jp>
e-mail : crystal@yutakamusen.co.jp

ブース
25

YHS-2060LP4

文系の先生方、コンピューターなどが苦手な方でもカンタンに使用できるサーバーです。
主な機能として、

1. インターネットへの接続も設定無しでできます。
2. 簡単にホームページをすぐに公開・更新できます。
3. ファイルやフォルダを安全迅速に共有できます。
4. プリントサーバー機能も装備しているので経済的です。
5. ハブを内蔵しているので、数台の PC を一度にインターネットに接続することができます。

株式会社ユニシア

部署 : 業務統括部
住所 : 〒110-0015 東京都台東区東上野 2-23-8 第二群山ビル 202
電話 : 03-5812-3632
HP : <http://www.unisia.co.jp>
e-mail : murayama@unisia.co.jp

ブース
7

Dynamic CBI

CBI Manager

「Dynamic CBI」は、誰にでも簡単に教材を作ることが出来るツールです。例えば、授業をそのままの形で収録し、それをリアルタイムで教材に仕上げることも出来ます。出来上がったものは、VOD 配信は勿論のこと CD による配布が可能なので、場所や時間にとらわれることなく、予習・復習や補習を行なうことが出来ます。IT 時代に向け、有効かつ効率的に語学学習を進めるために「CBI」は力強いパートナーになることをお約束いたします。

また「CBI Manager」を併用することにより、「CBI」で作成した教材を Web 上で簡単に管理することが出来ます。

「Easy」で「Simple」で「Speedy」な「Dynamic CBI」を是非とも弊社のブースでご体験下さい。

自由閲覧コーナー 展示教材一覧

国内教材

No.	タイトル	分類	種類
1	ネットワーク型添削支援システム E-Correct	その他	CD-ROM
2	漢字学習アドベンチャーR.P.G. GO-COO	文字・表記	CD-ROM
3	Situational Functional Japanese	総合	CD-ROM
4	Let's learn Nihongo 漢字書き練習辞典	文字・表記	CD-ROM
5	Let's learn Nihongo 漢字の基礎	文字・表記	CD-ROM
6	Let's learn Nihongo 正しい日本語の使い方	総合	CD-ROM
7	Let's learn Nihongo Writing Tablet	その他	--
8	DR. K'S KANJI MASTER	その他	FD
9	DR. K'S KANJI MASTER 2	その他	FD
10	Nihongo Ware 1 日本語ウェア 1	会話・聴解	CD-ROM
11	Nihongo Ware 2 日本語ウェア 2	会話・聴解	CD-ROM
12	Remembering the Kanji: hyperkanji!	文字・表記	FD
13	Japanese KATAKANA カタカナ for Windows	文字・表記	CD-ROM
14	Japanese HIRAGANA ひらがな for Windows	文字・表記	CD-ROM
15	なんでもサンタ君	その他	CD-ROM
16	漢字大サーカス Vol.1 消えたライオンをさがせ!	文字・表記	CD-ROM
17	漢字大サーカス Vol.2 漢字の国を取り戻せ!	文字・表記	CD-ROM
18	漢字ワールド I	文字・表記	CD-ROM
19	漢字ワールド II	文字・表記	CD-ROM
20	漢太郎 Kantaro Vol.1	文字・表記	CD-ROM
21	漢太郎 Kantaro Vol.2	文字・表記	CD-ROM

22	漢太郎 Kantaro Vol.3	文字・表記	CD-ROM
23	黒帯 FUNDAMENTAL JAPANESE	総合	CD-ROM
24	写真パネルバンク CD-ROM	その他	CD-ROM
25	東遊記(デモ版)	総合	CD-ROM
26	できるよ!	その他	CD-ROM
27	日本語実践 Practical Japanese Vols.1, 2 and 3	総合	CD-ROM
28	クリックeコミック コボちゃん	総合	CD-ROM
29	書いて覚えるハイパー漢字ソフト パワーナゾラー	文字・表記	CD-ROM
30	漢字パニック Vol.1 まほうのうかんむりをさがせ	文字・表記	CD-ROM
31	漢字パニック Vol.2 ひらがなマンの野望	文字・表記	CD-ROM
32	KSP 日本語 まなびや 動詞活用編(英語版)	その他	CD-ROM
33	KSP 日本語 まなびや 動詞活用編(韓国語版)	その他	CD-ROM
34	KSP 日本語 まなびや 動詞活用編(中国語簡体字版)	その他	CD-ROM
35	生活シミュレーション わたしのまち	その他	CD-ROM
36	日本語の相づち:楽しい会話への鍵	会話・聴解	CD-ROM

(順不同)

海外教材

No.	タイトル	分類	国	種類
A-01	すごい sugoi! Learn to speak Japanese	会話・聴解	Australia	CD-ROM
A-02	Learn Japanese Now!	会話・聴解	USA	CD-ROM
A-03	Translation Aide 2.0 訳師如来	その他	USA	CD-ROM
A-04	101 LANGUAGES of The World	会話・聴解	USA	CD-ROM
A-05	2000 KanjiKit	その他	USA	CD-ROM
A-06	Kana-kun Learn the ABC's of Japanese	文字・表記	USA	CD-ROM
A-07	Instant Immersion Japanese	会話・聴解	UK/USA	CD-ROM
A-08	Kanji Reader	文字・表記	USA	FD
A-09	Read & Write Japanese!	文字・表記	USA	CD-ROM
A-10	Vocabulary Builder Japanese	会話・聴解	UK	CD-ROM
A-11	BLACK BELT Japanese the language learning game!	文字・表記	USA Hawaii	CD-ROM
A-12	The Rosetta Stone POWER PAC	総合	USA	CD-ROM
A-13	KANJI POP(漢字 POP)	その他	USA	CD-ROM
A-14	Rosetta Stone Language Learning Success Japanese Level 1/2 set	総合	USA	CD-ROM
A-15	LANGUAGE ADVENTURE 1	会話・聴解	USA	CD-ROM
A-16	LANGUAGE ADVENTURE 1/TEACHER EDITION	会話・聴解	USA	CD-ROM
A-17	TYPE & LEARN JAPANESE	文字・表記	USA	CD-ROM
A-18	KidSpeak 6-in 1 Language/Japanese	会話・聴解	USA	CD-ROM
A-19	POWER JAPANESE	総合	USA	CD-ROM
A-20	DYNAMIC JAPANESE	会話・聴解	USA	CD-ROM
A-21	Destination Japan	その他	USA	FD
A-22	Kantaro Vol.1(楽しい漢太郎)	文字・表記	USA	CD-ROM

A-23	Kana Learning Package	文字・表記	USA	FD
A-24	World Talk JAPANESE	会話・聴解	UK	CD-ROM
A-25	Tell me More Japanese (Beginner & Advanced)	総合	France	CD-ROM
A-26	Global Japanese	会話・聴解	UK	CD-ROM
A-27	Talk Now! learn Japanese	会話・聴解	USA	CD-ROM
B-100	クリック! 日本語の中へ(初級から中級まで)	総合	韓国	CD-ROM テープ
B-101	NIHONGO BANK JAPANESE CONVERSATION SELF BOOK 入門 1	総合	韓国	テープ
B-102	NIHONGO BANK JAPANESE CONVERSATION SELF BOOK 入門 2	総合	韓国	CD-ROM テープ
B-103	NIHONGO BANK JAPANESE CONVERSATION 入門 1 (会話で習う基礎の日本語文法の整理)	総合	韓国	CD-ROM テープ
B-104	NIHONGO BANK JAPANESE CONVERSATION 入門 2 (会話で習う基礎の日本語文法の整理)	総合	韓国	CD-ROM テープ
B-105	THE BEST SPOKEN JAPANESE THE DIRECT METHOD 1	総合	韓国	Audio CD
B-106	THE BEST SPOKEN JAPANESE THE DIRECT METHOD 2	総合	韓国	Audio CD
B-107	あなた、本当の日本語を知っている?	その他	韓国	Audio CD
B-108	NHK すらすら日本語 1	総合	韓国	CD-ROM
B-109	NHK すらすら日本語 2	総合	韓国	CD-ROM
B-110	NHK すらすら日本語 3	総合	韓国	CD-ROM
B-111	NHK すらすら日本語 4	総合	韓国	CD-ROM
B-112	NHK すらすら日本語 5	総合	韓国	CD-ROM
B-113	NHK すらすら日本語 6	総合	韓国	CD-ROM
B-114	日本語ジャーナル Vol.1	総合	韓国	CD-ROM テープ
B-115	日本語ジャーナル Vol.2	総合	韓国	CD-ROM
B-116	日本語天国－面白い日本語の世界(入門編)	総合	韓国	CD-ROM
B-117	日本語天国－面白い日本語の世界(初級編)	総合	韓国	CD-ROM
B-118	マンガで学ぶ日本語	総合	韓国	Audio CD

B-119	猟奇にほんご	その他	韓国	CD-ROM
B-120	日本語能力試験 3・4 級合格作戦	総合	韓国	CD-ROM
B-121	しっかり日本語－日本語学習の新しい友達	総合	韓国	CD-ROM
B-122	マンガで学ぶパーフェクト日本語会話 (Part 1)	会話・聴解	韓国	CD-ROM
B-123	面白い日本語道しるべ	総合	韓国	CD-ROM
B-124	ぴんとくる日本語	会話・聴解	韓国	Audio CD
C-200	台湾を見て学ぶ日本語	その他	台湾	CD-ROM Audio CD
C-201	大家的日本語(みんなの日本語)初級 I ～日本語の発音から第 13 課まで～	総合	台湾	CD-ROM
C-202	大家的日本語(みんなの日本語)初級 II ～第 14 課から第 25 課まで～	総合	台湾	CD-ROM
C-203	大家的日本語(みんなの日本語)進階 I ～第 26 課から第 38 課まで～	総合	台湾	CD-ROM
C-204	大家的日本語(みんなの日本語)進階 II ～第 39 課から第 50 課まで～	総合	台湾	CD-ROM
C-205	大家的日本語(みんなの日本語)初級 I 会話 DVD ～第 1 課から第 13 課まで～	会話・聴解	台湾	DVD
C-206	大家的日本語(みんなの日本語)初級 II 会話 DVD ～第 14 課から第 25 課まで～	会話・聴解	台湾	DVD
C-207	大家的日本語(みんなの日本語)進階 I 会話 DVD ～第 26 課から第 38 課まで～	会話・聴解	台湾	DVD
C-208	大家的日本語(みんなの日本語)進階 II 会話 DVD ～第 39 課から第 50 課まで～	会話・聴解	台湾	DVD
C-209	新日本語の基礎 I	総合	台湾	CD-ROM
C-210	新日本語の基礎 II	総合	台湾	CD-ROM
C-211	網譯 XP2003 Trans Web e 発翻訳 (インターネットほんやく)	その他	台湾	CD-ROM
C-212	隨身聴寫 50 音 一週間で上達!	文字・表記	台湾	CD-ROM Audio CD
C-213	新文化日本語 初級 1	総合	台湾	CD-ROM
C-214	観光旅遊日語	会話・聴解	台湾	CD-ROM
C-215	日本語 初級総合教程	総合	中国	CD-ROM
C-216	Japanese Conversation 1	会話・聴解	タイ	CD-ROM
C-217	にほんごかいわ	会話・聴解	タイ	CD-ROM

C-218	Vidual DICTIONARY	文字・表記	タイ	CD-ROM
C-219	A Japanese of Daily Life	会話・聴解	タイ	CD-ROM
C-220	4 INTERNATIONAL DICTIONARY	文字・表記	タイ	CD-ROM
C-221	初級日本語	会話・聴解	タイ	CD-ROM
C-222	会話日本語	会話・聴解	タイ	CD-ROM

(順不同)

(注) 教材番号の A は欧米圏の教材, B は韓国の教材, C は韓国以外のアジア圏の教材を表しています。

「コンピュータと新日本語教育2003」

基調講演

講演時間割

日時：12月22日(月) 10:00～12:00

会場：ガラス棟5階 G510 会議室

10:00 10:10	あいさつ 国立国語研究所 杉戸清樹
10:10 10:25	講演1: コンピュータ利用日本語教育から日本語教師の役割を再考する 名古屋外国語大学 水谷修氏
10:30 11:10	講演2: 中国の日本語教育・日本語研究におけるコンピュータの利用状況 中国・北京日本学研究中心 徐一平氏
11:15 12:00	講演3: コンピュータによる日本語学習の認知的効果の落とし穴 韓国・同徳女子大学外国語学部 李徳奉氏

講演1:「コンピュータ利用日本語教育から日本語教師の役割を再考する」

講演内容

デジタル技術・通信技術の進展によって、文字・画像・音声などすべての情報がデジタル化され、大容量で質の高い情報をネットワーク上で流通、蓄積することが可能となった。

しかし、ネットワーク上に流通するこれらの情報の中から、学習者が自分に有意義な知識を得られるようにするには、教師やリソース開発者は、これまでの印刷物にはない新たな工夫が必要である。

また、常に実践的なデータの収集、分析を行い、学習者個々の学習過程と知識の蓄積等の構造を明らかにしなければならない。そのためには、教室の中で印刷物・筆記用具によって教育実践が行われていた時代とは異なる観点が必要となる。自分一人で実践できない場合、他領域・他分野の人と連携する力量も求められる。

では、以前の日本語教師とコンピュータ社会での日本語教師では、求められるもの・役割は異なるのであろうか。コンピュータという便利な道具を前にして、日本語教師はどのようなことを考え、どのように日本語教育に関わっていけばいいのだろうか。

講演者紹介

水谷 修 (みずたに おさむ) 氏
名古屋外国語大学長

専 門：日本語教育, 国語学

略 歴 等：国際基督教大学助手, 千葉大学講師, スタンフォード大学日本研究センター語学主任, 同副
所長, 国立国語研究所日本語教育部日本語教育研究室長, 名古屋大学総合言語センター
教授, 国立国語研究所日本語教育センター長, 国立国語研究所長, 名古屋外国語大学大
学院国際コミュニケーション研究科長を経て, 平成 14(2002)年4月から現職。第21期(第2委
員会主査)及び第22期(第3委員会「国際社会に対応する日本語の在り方」主査)国語審議会
委員, 日本語教育学会長などを歴任。また, 平成 11(1999)年度文化庁「日本語教員の養成
に関する調査研究協力者会議」及び平成12年度(2000)文化庁「日本語教育のための試験
の改善に関する調査研究協力者会議」の座長を務めた。現在, NHK 放送用語委員会委員,
日本学術会議会員, 文化審議会の国語分科会委員等。

主な著書：『はなしことばと日本人(日本語の生態)』(創拓社) (“Japanese: The Spoken Language in
Japanese Life”) “Introduction to Modern Japanese” JAPAN TIMES
“Nihongo Notes” JAPAN TIMES 他

講演2: 中国の日本語教育・日本語研究におけるコンピュータの利用状況

(中国日语教育、日语研究中计算机的利用情况)

講演内容

一、発展段階を振り返る

中国におけるコンピュータ利用の進歩(20世紀80年代—90年代)

インターネットの普及、大学ランの構築

1996年、北京日本学研究中心主催の「コンピュータと日本語研究」国際シンポジウム

1997年、山東大学日本学研究中心主催の「情報ネットワーク時代と日本研究」国際シンポジウム

二、研究プロジェクトの開発:

「中日対訳コーパス」(北京日本学研究中心)

「日本語初級総合教程」(湖南大学・高等教育出版社)

「日本語学習総合ネットスタント」(洛陽外国語学院)

「教科書データベース」(北京日本学研究中心)

一、回顾发展阶段

中国计算机利用的发展阶段(20世纪80年代—90年代)

英特网的普及、大学校园网的建设

1996年、北京日本学研究中心主办《日本語教育、研究与计算机》国际学术研讨会

1997年、山東大学日本学研究中心主办《信息网络时代与日本研究》国际学术研讨会

二、研究项目的开发:

《中日对译语料库》(北京日本学研究中心)

《日语初级综合教程》(湖南大学、高等教育出版社)

《日语学习者综合网站》(洛陽外国語学院)

《教科书数据库》(北京日本学研究中心)

講演者紹介

徐 一平 (XU, YI PING) 氏
北京日本学研究中心主任・教授・博士生導師

専 門：日本語学・中日対照言語学

略 歴 等：1979年北京外国語大学日語系卒業。

1981年北京外国語大学日語系研究生卒業。

1985年神戸大学大学院文学研究科卒業・修士号取得。

1989年神戸大学大学院文化学研究科卒業・博士号取得。

現在、中国日語教学研究会副会長，中華日本学会常務理事，北京市中日関係史学会副会長。

主な著書：『日本語研究』(1994年、人民教育出版社)

『副詞』(1997年、外語教学与研究出版社)

『中国の日本研究』(1997年、主編、社会科学文献出版社)

『利瑪竇伝』(1999年、翻訳、光明日報出版社)

『日本語言』(1999年、高等教育出版社)

『中文版日本語文型辞典(中国語翻訳繁体字版・簡体字版)』(2001年、くろしお出版)

『中日対訳語料庫の研製と応用研究論文集』(2002年、主編、外語教学与研究出版社)等

講演3: コンピュータによる日本語学習の認知的効果の落とし穴

講演内容

1 新しいメディアと教育	1 새로운 매체와 교육
2 e-Learningコンテンツの機能	2 e-Learning 콘텐츠의 기능
3 e-Learningの長所	3 e-Learning의 장점
4 e-Learning Contentsのマルチ視聴覚性	4 e-Learning 콘텐츠의 멀티 시청각성
5 コンテンツの評価領域	5 콘텐츠의 평가 영역
6 認知的学習要因	6 인지적 학습요인
7 認知的学習要因と e-learning	7 인지적 학습요인과 e-learning
8 e-Learningの落とし穴	8 e-Learning의 함정
9 人間化実現へのプロセス	9 인간화 실현에 이르는 길
10 CAI・CMIの見直し	10 CAI・CMI의 재평가
*CALL assisted CAI、WBI	*CALL assisted CAI、WBI
*WBIのマルチ機能化	*WBI의 멀티 기능화
*教育と学習の助っ人としての機能	*교육과 학습의 보조 기능
*グローバル・ネットワークの活性化	*글로벌네트워크의 활성화

講演者紹介

李 徳奉 (YI, DOK BONG) 氏

同徳女子大学外国語学部教授(日本語専攻コース)、明海大学外国語学部日本語学科客員教授

専門：応用言語学(日本語教育)

略歴等：筑波大学大学院 文芸言語研究科博士課程修了(言語学博士)

韓国日本学会14-15代会長を歴任。文教部第5次7次高等學校日本語科学習指導要領改定研究委員、教育部 6,7次國定教科書日本語科9科目開発責任委員、韓国學術振興財団語文学小委員会運営委員、教育課程評価院大学修学能力試験第二外国語科諮問委員などを歴任。

主な著書：1998『日本語教育の理論と方法』ソウル;時事日本語社

1999『マルチメディア言語教育の理論と実際』(共著)ソウル;博文社

2002『総合的日本語教育を求めて』(共編)東京;国書刊行会

主な論文：「日本語科教育課程の変遷課程と構成」、『日本學報』33(韓国日本學會), pp.45-70

「学習や主導型外国語教授法理論」, "Foreign Languages Education" 3-2

「マルチメディア言語学習の学習心理」,

"Multimedia-Assisted Language Learning" 1-1, pp163-176

「マルチメディア言語学習の認知構造」, 『Foreign Languages Education』5-2, pp 307-324

「認知的意味のカテゴリー構造」, 『日本學報』44(韓国日本學會)

「総合的日本語学習としてのオープンメソッド」,

韓国日本學會と日本の日本語教育学会共同主催日本語教育国際シンポジウムProceedings

「拡張的学習理論の認知効果」『日本學報』45(韓国日本學會)

「外国語教育のための文化の領域定め」日本學報53(韓国日本学会) 外多数

「コンピュータと新日本語教育2003」

セミナー

このセミナーは、「IT を活用した日本語教育指導能力向上研修」の中の特別研修として位置付けられます。ここでは、いわゆるパソコン教室ではなく、コンピュータを教育や学習に導入することについての意義を考えつつ、日本語教育において先駆的な試みを行う人材の育成を目的とします。

コンピュータは、電子メール、データベース、検索・抽出など、便利な機能を多々有する道具です。これを教育活動や学習活動に取り入れることは、教師や学習者に、これまでになかった環境を与えてくれます。テレビ会議などは、その顕著な例と言えます。

コンピュータは、学習観、能力観、教師像の再認識を問う道具でもあります。例えば、日本語学習の場合、限られた学習時間の中で学習者がコンピュータに向かうということは、キーボードでの入力作業による語彙選択能力は必要となりますが、筆記能力は問われません。最近、ワープロを使用する人から筆記用具を持つと漢字が出てこない、という声が聞かれます。これは、このことを表しています。つまり、日本語の記述力、人間の記憶力、学習者にとって必要な日本語力、学習者の今後の成長に必要な能力などを熟考した上で、教育や学習ではコンピュータの利用を考える必要があることを示唆しています。

一方、海外で日本語を学習している人にとって、コンピュータを通して得られるマルチメディアによる日本・日本語情報は、必要かつ重要なリソース(資源)とも言えます。日本で外国語を学習している人にとっても同様のことが言えます。外国語学習において、コンピュータが提供する環境が、学習意欲の増進に貢献することも明らかです。

では、どのようにコンピュータを利用するのがよいかについては、今後様々な実践的な調査研究の結果を踏まえる必要がありますが、そのためには、実践する人材の育成が欠かせません。そこで、このセミナーでは、二つのアプローチから日本語教育におけるコンピュータ利用を考える場を提供します。

参加される方が日常の中で、「日本語学習支援につながるマルチメディアを活用した教育コンテンツの作成:マルチメディア教材の作成」「教育改善につながる教育情報の整理・管理・活用:遠隔学習ツールの活用」ということを考えるために、事例報告と演習の二本の柱を立てました。この3日間、展示閲覧、事例報告や演習を通じてコンピュータ利用について再考し、日常の実践活動の中で多彩な利用の試みが行われ、その結果が広く教育現場にフィードバックされることを期待します。

セミナー時間割

12月21日(日)

	セミナー1	セミナー2
13:00 14:00	Blackboard 活用における実践的試み シンガポール・タマセクポリテクニク 近藤かおり氏	日本語教師に必要な著作権の知識 メディア教育開発センター 助教授 太田好彦氏 客員助教授 杉村晃一氏
14:00 15:00	韓国の遠隔教育 (Consortium Cyber Campus) 釜山外国語大学日本語学科 鄭起永氏	デジタル教材の開発と流通・再利用 メディア教育開発センター 山田恒夫氏
15:00 16:30	展示自由閲覧	展示自由閲覧

12月22日(月)

	セミナー1	セミナー2
13:00 16:30	WebCT 利用で教育情報流通 国立国語研究所 (協力:エミットジャパン, CSK)	きりはり教室改良版 YANITA で マルチメディア教材の作成 東京学芸大学留学生センター 任都栗新氏 (協力:日立ソフトウェアエンジニアリング, 豊無線)

12月23日(火・祝)

	セミナー1	セミナー2
10:00 12:00	WebCT 利用で教育情報流通 国立国語研究所	マルチメディア教材の Web 化と共有 東京学芸大学留学生センター 任都栗新氏 (協力:日立ソフトウェアエンジニアリング, 豊無線)
12:00 14:00	休憩時間 展示自由閲覧	休憩時間 展示自由閲覧
14:00 15:00	大阪大学コミュニティ・サイト 大阪大学 芦沢真五氏	カラオケ作成, 字幕付動画作成 国立国語研究所
15:00 16:00	Web Based Testing / Teaching 海外技術者研修協会	コンピュータ活用教育のコースデザイン 国立国語研究所
16:00 16:30	質疑応答・相談など	質疑応答・相談など

セミナー内容紹介

セミナー1:「教育情報の蓄積・流通・共有と教育改善」

12月21日(日)

テーマ: 先行事例からコンピュータ利用とコンテンツを考える

Blackboard 活用における実践的試み

URL : <http://ole-bb.tp.edu.sg/webapps/login>

シンガポール・タマセクポリテクニク 近藤かおり氏

遠隔教育ツール「Blackboard」を2年半にわたって利用してきた体験を報告。更に、教材の開発、実際の運用を通して、教師に求められる役割について言及する。

- 1) シンガポールでのコンピュータを利用した日本語教育の現状
- 2) 所属機関における取り組み
- 3) 問題点(教材開発、コンピュータ利用、海外故の悩み等)
- 4) 可能性の検証(Blackboardの有効活用、危機管理に対応等)
- 5) 今後の課題(ネットワークの構築、IT活用能力・専門性の向上等)

韓国の遠隔教育 (Consortium Cyber Campus)

URL : <http://www.ocu.ac.kr/>
<http://top.realtop.co.kr/>

釜山外国語大学日本語学科 鄭起永氏

●サイバー基礎日本語講座について

インターネットを利用して大学の講義と同様の内容、水準の講義を Web 上で受けることができるシステム。講座は1回毎に学習目標が定められ、文法説明や練習問題の課題を遂行する構成。受講後には達成度を測るミニ・テストがある。

●韓国内外日本語学習サイト検索エンジンについて

韓国をはじめ日本やその他の国で運営されている日本語学習サイトを言語の四技能を中心に目的別に分類し、運営されているサイトを利用して日本語学習をする際に、求める情報を素早く的確に得るための補助。各サイトの内容紹介や長所・短所などの説明もある。

12月22日(月)

テーマ: WebCTを使って、コンテンツ作り、テスト作り、評価等教育情報の取扱いなど、遠隔学習システムを実地に体験する。

42

WebCT 利用で教育情報流通

URL : <http://www.kokken.go.jp/enkaku/>

国立国語研究所
(協力:エミットジャパン, CSK)

遠隔教育用ツールの概観
WebCT を例にしてツールの学習

12月23日(火・祝)

テーマ：遠隔教育用ツール上で動作する電子化コンテンツ(課題, 宿題, テスト)の作成とテスト結果分析等の評価

WebCT 利用で教育情報流通

URL : <http://www.kokken.go.jp/enkaku/>

国立国語研究所
(協力: エミットジャパン, CSK)

実際に遠隔教育用ツール上で動作する電子化コンテンツ(課題, 宿題, テスト)の作成とテスト結果分析等の評価までを体験

大阪大学コミュニティ・サイト

URL : <http://tagengo.osaka-u.info/index.html>

大阪大学 芦沢真五氏

留学生相談室や留学生センターが中心となり、留学生や外国人研究者を主対象とするオンライン・コミュニティについて報告。多言語掲示板やオンライン日本語教材などを整備し、留学生や研究者がコミュニティに主体的に参加できるよう手助けとなることを目指す。地域在住外国人や日本人学生やボランティアの方も参加できるサイトとして計画。(大阪大学フロンティア研究機構, Eジャパン協議会, JAFSA等助成プロジェクト)

Web Based Testing / Teaching

URL : http://nihongo.aots.or.jp/learn_g.html
(Let' s Speak Japanese on the Web!)

海外技術者研修協会

限定された期間での滞在という環境の研修生の帰国後も日本人と共同で業務ができる高度な日本語能力の希望に対応するため、インターネットで日本語学習ができる「WBT AOTS 日本語学習システム」を開発し、遠隔研修を取り入れた日本語教育を推進。対面型授業に加え、課外での「WBT AOTS 日本語コース」で自学自習。

- ・ WBT AOTS 日本語テスト
- ・ WBT AOTS 日本語コース

セミナー2: マルチメディア教材作成

12月21日(日)

テーマ: 関連する知識の用意をする

日本語教師に必要な著作権の知識

URL : <http://deneb.nime.ac.jp/>

メディア教育開発センター 助教授・太田好彦氏, 客員助教授・杉村晃一氏

CI-NIME 教育メディア著作権関連情報サイトを参考に、日本語教師に必要な著作権情報や知識を得る。

他団体の出資で教材を共同開発した場合やその教材を海外に向けて発信あるいは海外で頒布する場合、海外の人が教材制作に関与した場合、海外の人が著作した著作物あるいは海外で最初に発行された著作物を教材に使う場合、インターネットで入手できる資源を活用する場合、学校内 LAN で使用する場合、テレビ番組を授業で利用する場合などで発生する問題、教師が事前に検討や合意しておくポイントを、NIMEの著作権データベースを使って具体的に考察する。著作権データベースでは対処できないところについても対応する。

デジタル教材の開発と流通・再利用

URL : <http://www.nime.ac.jp/KYOZAI/index.html>

メディア教育開発センター 山田恒夫氏

限られた予算とスタッフで高品質なデジタル教材を開発するシステムと社会的合意について考える。NIME で開発した日本語教育教材や日本語教師を対象にした情報化研修の成果を紹介するとともに、現在構築中の教材共有・再利用のための WWW(学習オブジェクト・レポジトリ)に言及する。

紹介予定教材 (展示あり)

1) CALL 副教材シリーズ

- 日本語韻律 Vol.1 東京語のアクセントとイントネーション
- 日本語韻律 Vol.2 アクセントの聞き取り練習と外来語のアクセント
- 日本語韻律 Vol.3 アクセント練習用音声ファイル集
- 日本語韻律 II アクセントの多様性と変遷
- 日本語韻律 II 方言アクセントと音声データベース
- 日本語: 声の曼荼羅一語りとコミュニケーション

2) 日本語リメディアル教材

3) AATJ-NIME 日本語教育情報化研修成果集

電子化教材の作成について考える。

「日本語リメディアル教材」

大学生が学習スキルの会得、自ら考える力の養成、問題解決能力の育成のために、実験教材を理解し、レポートが書けるようになることを目指す。

CALL 副教材シリーズ「日本語韻律」

民話などの音声素材を15のトピックスに構成し、それぞれのタスクと解説を配置し、音声言語学の視点から分析・研究をする。

12月22日(月)

テーマ：マルチメディアによる教材の作成と共有, Web での発信を実地に体験する。

きりはり教室改良版 YANITA でマルチメディア教材の作成

URL : http://xeva.hitachi-sk.co.jp/kirihari/Products/machi/mach_index.htm

東京学芸大学留学生センター 任都栗新氏
(協力:日立ソフトエンジニアリング, 豊無線)

素材(静止画像, 動画像, 音声, テキスト)の融合化の練習
融合化から教材化へ, 印刷教材のマルチメディア教材化へ

12月23日(火・祝)

テーマ：インターネット上のサーバを通じて教材の発信と共有を行う

マルチメディア教材の Web 化と共有

URL : http://xeva.hitachi-sk.co.jp/kirihari/Products/machi/machi_index.htm

東京学芸大学留学生センター 任都栗新氏
(協力:日立ソフトエンジニアリング, 豊無線)

マルチメディア教材の HTML 化とサーバへのアップロードと共有, Web サイトからの発信を体験

カラオケ作成, 字幕付動画作成

URL : <http://202.245.103.49/kenshu/Sozai/Tariki/movie00.htm>
<http://202.245.103.49/kenshu/Sozai/karaoke/step00.htm>

国立国語研究所

プロジェクト・ワークによる日本語学習で使える道具として, 教師にも学習者にも作れる簡単なツールとして。

コンピュータ活用教育のコースデザイン

URL : <http://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/gc/course/hajimeni/01.html>

国立国語研究所

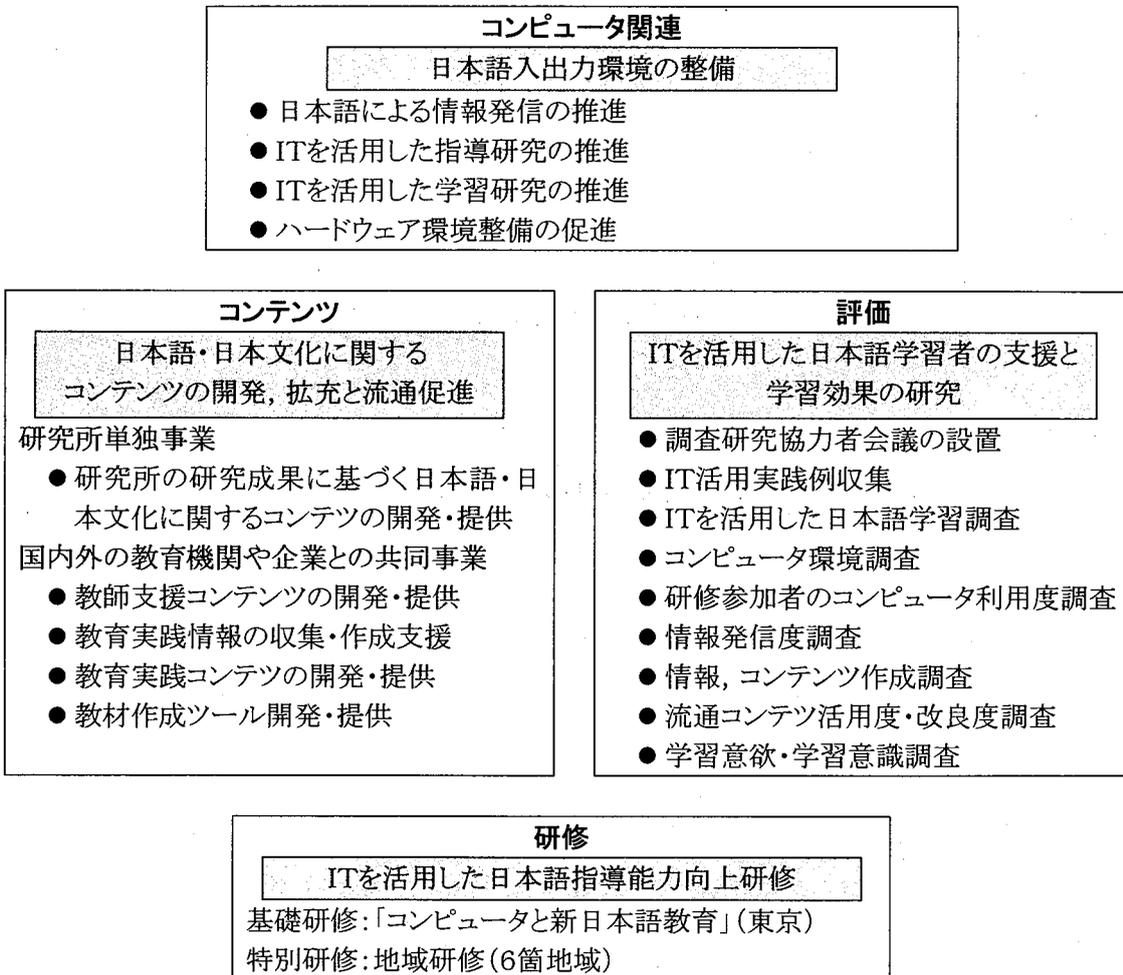
印刷教材中心のコースデザインと電子化教材によるコースデザインとの違い。

「コンピュータと新日本語教育2003」

e-Japan 事業について

e-Japan 事業「IT を活用した日本語学習環境の整備」について

平成13年1月に設置された「高度情報通信ネットワーク社会推進戦略本部 (IT戦略本部, 座長小泉首相)」(<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/it2/>)により e-Japan 重点計画が設定され, その重点政策5分野の一つである「人材の育成と教育・学習の振興」において, 独立行政法人国立国語研究所は, 平成14年度より「IT を活用した日本語学習環境の整備」を実施しています。この事業は, 国内外での日本語学習, 海外での日本・日本文化の理解を促進するため, 「海外のコンピュータの日本語環境整備」「IT を活用した日本語学習効果の研究」「日本語・日本文化に関するコンテンツの研究開発・提供と流通の場の提供」「IT を活用した日本語指導能力の向上研修」の四本柱で事業を進めております。これを図式化すると, 以下のようになります。



このような柱のもとに, 様々なプロジェクト活動を内外の諸機関や企業と実行しています。活動を理解していただくために, 以下に, 平成14年度の「IT を活用した日本語学習環境の整備」(e-Japan2002 プログラム対応事業)の概要を記します。

※詳細は, <http://www.kokken.go.jp/eJapan/>を御覧ください。ツールや資料の入手が可能です。

平成 14 年度活動概要

※ 例は、平成 14・15 年度の活動現況を例示。

(1) インターネットにおける日本語環境の整備

2002(平成 14)年度～2004(平成 16)年度

- 日本語入力関連ソフトの提供
例: WebIME の開発, 超漢字・南極星・Lindows CD 版等の配布, など。
- フォント・サーバの提供
例: JiWORDS, JiBOOKS の運用, など。
- 巡回指導
例: 対象国: 東アジア, 東南アジア, 欧州, 南米の日本語教育機関。

(2) 日本語・日本文化に関するコンテンツの開発・提供の拡充と流通の促進

2002(平成 14)年度～2005(平成 17)年度

○国立国語研究所主体事業

- 対照言語の研究成果による言語資料の発信
- 比較文化の研究成果による日本人行動様式資料の発信
- 外国人日本語学習者の誤用例の発信
- 漢字情報・漢字指導情報の発信
例: 日本語コミュニケーションの電子コンテンツの作成, 擬態語・擬声語 Web サイトの作成, 質問紙調査ウィザードの作成, 世界の学校教科書比較データベースの作成, 発声発語訓練システム提供による日本語音声指導コンテンツの作成, マルチメディア教材作成ツール YANITA の開発, Web サイト評価基準資料の作成, 日本語学習辞典 Web サイトの作成, 日本語教材検索 Web サイトの作成, 作文添削ツールの開発, 漢字属性情報データベースの作成, など。

○他機関共同事業

- 国内外の日本語教育機関と共同での日本語教師支援資料(教材作成用)の発信
- 日本語教育実践情報の作成支援, 発信
- マルチメディア教材作成ツールの開発・提供
例: 多言語版日本語読解学習支援システム(リーディング・チュウ太)の開発, 日本の生活・文化情報マルチメディア教材の作成, ドイツ日本語支援教材の作成, コンピュータ利用による日本語学習教材・システムの開発・運用, WWW を活用した日本語学習教材の作成, 中国年少日本語学習者用電子コンテンツの作成, など。

なお、最終年度までには、コンテンツに関わる情報や Web サイトに掲載されている情報を、日本語以外の言語(韓国語, 中国語, 英語, スペイン語, ポルトガル語, インドネシア語, タイ語, ドイツ語, フランス語等)の母語話者で初級程度の日本語学習者にも情報収集ができるようにします。

(3) ITを活用した日本語学習の支援と学習効果の研究

2002(平成 14)年度～2005(平成 17)年度

- 日本語教育におけるコンピュータ環境事情・コンピュータ利用ニーズ調査
例: TV 会議での教育交流, 発声発語訓練システムでの日本語音声指導など。

(4) ITを活用した日本語教育指導能力向上研修

2002(平成 14)年度～2005(平成 17)年度

概要

目的:

日本語教育の教育目的や教育内容との関わりの深い情報(インフォメーション)を活用するために、コンピュータ及びインターネット等の技術(テクノロジー)の利用意義を正しく理解し、操作技能や活用方法を修得することを目指す。

対象者:

以下の条件を満たす者を対象として実施する。現在、大学や日本語学校に勤務し、日本語教育に携わっている日本語教師。キーボード・マウスの操作及びワープロ等のソフトの基本的な操作ができる日本語教師。

研修:

(ア) 普及段階(第4日), (イ) 啓発段階(第4日～第3日), (ウ) 実践段階(第4日～第6日)で構成され、段階(ア)と(イ)を8月に、段階(ウ)を12月に実施する。研修参加者は、自分の能力や必要性に応じて、何段階目まで参加するかを選択できる。

会場:

段階(ア)及び(イ)は東京、大阪、名古屋、仙台、広島、福岡の6会場。段階(ウ)は東京、大阪、名古屋の3会場。

定員:

段階(ア)各会場50名、段階(イ)各会場20名、段階(ウ)各会場20名

内容:

(ア)普及段階(第1日):教材開発、教育情報データベース、多言語環境等、コンピュータ及びインターネットを利用することですでに実現されている事例の紹介を中心とした概論。

(イ)啓発段階(第2日～第3日):デモセッションまたは分科会形式で実際に教材やデータベース等に触れることにより、具体的な利用方法や開発方法について学ぶ。研修受講生の修得目的によって、以下の二つのコースに分かれて研修を行う。

自分で開発はしないが利用方法を学びたい人向けコース

自分で教材等の開発を行いたい人向けコース

(ウ)実践段階(第4日～第6日):教材作成、教案のデータベース化等具体的なタスクを達成する技術の修得を目標とした演習。タスクを達成するまでの過程では、単に技術の修得を目指すだけでなく、誰のため・何のためにそれらの技術を利用するのか、また、タスクを達成した結果がどのように授業改善等に反映できるのか等を十分に意識化を図る。

その他:

(ア)第2段階終了から第3段階開始までの約4か月は、第3段階でのタスク達成型研修のためのタスク設定及び素材収集の準備期間とする。

(イ)準備期間中は、メーリングリストや日本語教育支援総合ネットワーク上の掲示板等を活用して、研修スタッフが進捗状況の確認をするとともに、必要な支援を行う(遠隔研修でサポート)。

おわりに

コンピュータは、マルチメディアによる情報を提供してくれます。インターネットを利用して、電子メール交流、ホームページの協働作成プロジェクト活動、テレビ会議によるコミュニケーション、音声認識による日本語音声指導、自分のペースでの自己学習、地理的や時間的な拘束を受けない遠隔学習やオンデマンド学習やテスト受験など、これまでになかった環境を与えてくれます。その一方で、インターネットでの多言語の同時表示の難しさ、電子メールがもたらす言語表現や文化規範意識の変容の問題、筆記力の育成と必要性の問題、コンピュータ・リテラシーが不足している人への対応の問題、コンピュータ利用教育に対するレディネスの多様性の問題など、課題は多くあります。また、コンピュータという道具を利用するために必要な教育コンテンツなどのリソース(資源)の蓄積は、大きな課題です。

コンピュータについては、その利用の是非よりも、利用する側である教師と学習者が、どのような理念や目標を持ち、必要性に対してどのような認識と姿勢のもとに、コンテンツの作成をはじめ、学習活動の設計をするかということが肝心です。つまり、コンピュータは、様々な環境と課題を与えてくれる道具であり、それを有効活用できるかどうかは、当事者である教師や学習者、教育経営者や行政担当者それぞれが担っていると言えます。

コンピュータは、様々な教育情報や学習活動情報を集積する機能を持っていますが、これを次の教育改善や授業改善や教材改良などにどのように活用するかは、教師組織の考え方に拠ります。これまで限られた範囲で蓄積されていた情報を、コンピュータやインターネットにより、広く共有できるようになりました。しかし、共有するためには、情報の発信、活用、更新が必要です。

今回の研修会「コンピュータと新日本語教育2003」は、コンピュータというキーワードのもとに、今後の日本語教育のあり方について、広く多くの人々が侃々諤々する場、教育改善のために積極的に動くための土台作りの場になることを目指しています。このほか、平成16年度(社)日本語教育学会春季大会や8月の日本、中国、韓国共催の日本語教育国際大会でも、電子化教材などをキーワードに日本語教育を考える機会が用意されています。

コンピュータをキーワードにした「コンピュータと新日本語教育2003」を、日本語教育や日本語教師教育の進展につながる人的ネットワーク形成の場として御理解いただき、多くの方々が様々な意見や知識を交換し、相互に刺激し合う有意義な時間になることを願っています。

参考 Web サイトのアドレス

〔サイト・ツール情報・海外日本語教育関連サイト〕

国立国語研究所日本語教育部門「日本語教育の世界 J-Web」

<http://www.kokken.go.jp/jsl/>

〔素材〕

国立国語研究所日本語教育部門「日本語教育ネットワーク」

<http://www.kokken.go.jp/nihongo>

国際交流基金日本語国際センター「みんなの教材サイト」

<http://www.jpf.go.jp/kyozai/>

ナショナル教育情報センター(NICER)

<http://www.nicer.go.jp/>

ジャストシステム「先生のための情報教育サイト」

<http://www.justsystem.co.jp/school/index.html>

マイクロソフト「教職員向け文例集」

<http://www.microsoft.com/japan/education/ssp/download/all.asp>

〔教育実践〕

(財) コンピュータ教育開発センター(CEC)「E スクエア・アドバンス:校務文書テンプレート」

<http://web2.cec.or.jp/jissenjirei/>

「Fumi's JFL Network」

<http://www.kfcs2000.com/f/jfl-act/index.html>

「教案の広場」

<http://www2.odn.ne.jp/kyouannohiroba1/menu.htm>

ナショナル教育情報センター「指導計画・授業実践」

<http://www.nicer.go.jp/teachers/sidou.html>

東京工業大学赤堀侃司研究室「大学授業改善事例データベース」

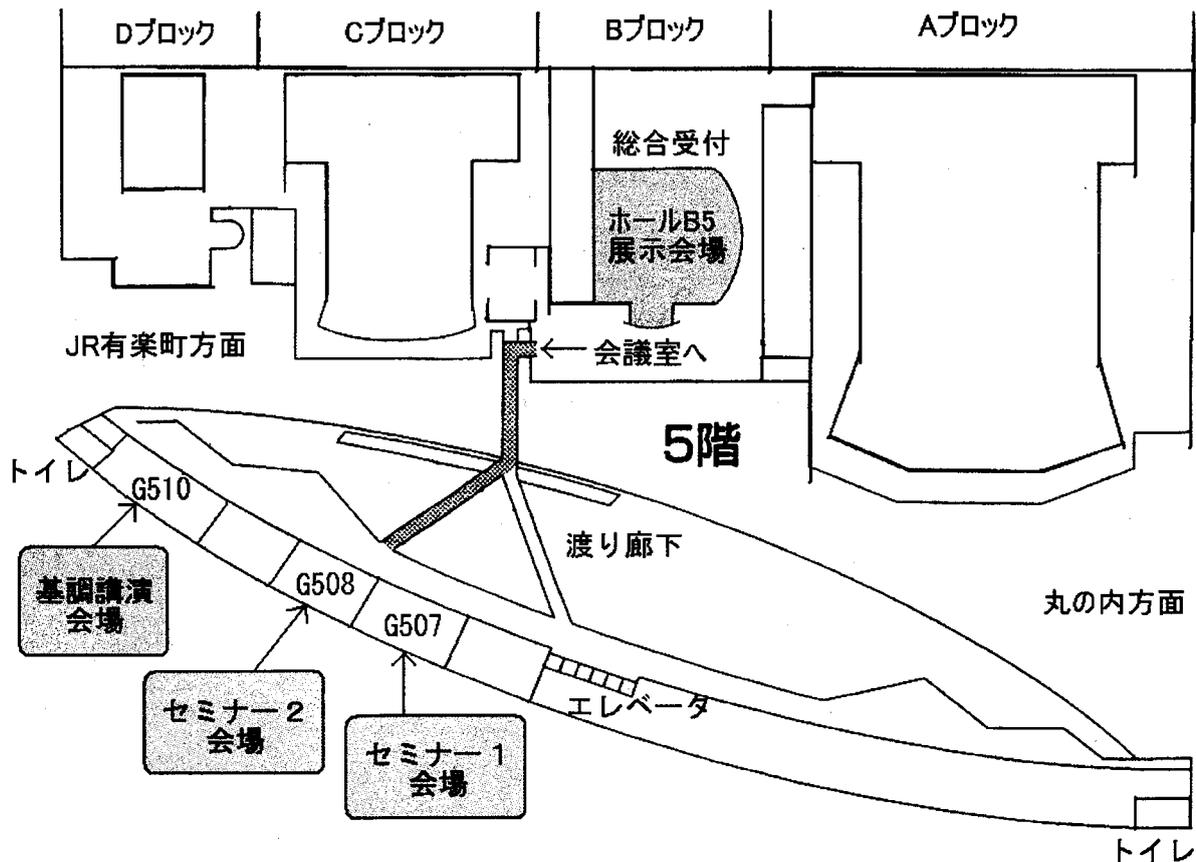
<http://www.educational-technology.org/>

(注記)国内外には多くの日本語教育関連サイトがありますが、Web サイトのアドレスは変更されることが多く、紙面上での情報が時として役に立たない場合があります。そこで、上記以外のものは、「日本語教育の世界 J-Web」(<http://www.kokken.go.jp/jsl/>)に掲載してありますので、御覧ください。

東京国際フォーラム周辺地図



IT研修会場フロアマップ



「コンピュータと新日本語教育 2003」

発行日：平成15年12月21日

発行者：国立国語研究所 日本語教育部門

発行所：独立行政法人 国立国語研究所
〒115-8620 東京都北区西が丘3-9-14

電話：03-5900-3111

印刷：株式会社 凡人社

h
x N21 1/197

独立行政法人 国立国語研究所

〒115-8620 東京都北区西が丘3-9-14 Tel=03-3900-3111(代表) e-mail=ittanken@kokken.go.jp